

科 目 名 称	英語科教育法					英語コミュニケーション (英) オフィス情報 ()
英 文 科 目 名 称	English Teaching Methodologies					留学 (英) 医療事務・医療秘書 ()
科 目 コ ー ド	541130	授業形態	講義	単位数	2	ビジネス・キャリア (英) スポーツ健康 ()
教 員 氏 名	安井 誠		年次配当	1 年次	後期	ホテル・観光 () 大学編入 (英)
授 業 概 要	この授業は、外国語（英語）の教員免許状取得を目指す学生を対象とした授業である。本授業では日本の英語教育の歴史や基礎知識、そして英語指導法に関する基礎的な理論と技術について教授する。また学生による模擬授業(Micro-Teaching)も行い、学習指導案作成に関しての意見交換や実際の模擬授業をとおして基礎的な理論と技術について検証し、良い英語指導とは何かということについて共に考えていく。					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 導入：教師の心構え、教育実習の心構え、英語教育の歴史について学ぶ。 指導法（諸教授法）（第3章）：主な教授法について学び、理解する。 諸教授法の実践、学習指導要領：Communicative Language Teachingを実践する。 言語スキルと指導技術（4技能の指導）（第5章）：英語の基本スキルに関する基礎知識、基礎技術について学ぶ。 授業展開（第7章：第1節）：実習生の授業（ビデオ）：基本的な授業1時間分の流れと展開について学ぶ。 指導形態、授業運営上の工夫、教具・教材・授業の指導形態、授業運営上の工夫、教具・教材に関して理解を深め、基礎知識について学ぶ。 学習指導案作成（第7章：第2節）、教材研究：学習指導案の基本構成を理解し、書き方を学ぶ。 模擬授業（第1回—1）：15分程度の模擬授業を行う（Warm-up、復習、導入を実践）。 模擬授業（第1回—2）：15分程度の模擬授業を行う（Warm-up、復習、導入を実践）。 模擬授業（第1回—3）：15分程度の模擬授業を行う（Warm-up、復習、導入を実践）。 外国語学習者の心理（学習不振対策）（第8章）：外国語学者の心理に関する基礎知識について学ぶ。 評価論（第4章）：テストを作成する上で重要な基礎知識について学ぶ。 模擬授業（第2回—1）：20分程度の模擬授業を行う（Warm-up、導入、練習を実践）。 模擬授業（第2回—2）：20分程度の模擬授業を行う（Warm-up、導入、練習を実践）。 模擬授業（第2回—3）：20分程度の模擬授業を行う（Warm-up、導入、練習を実践）。 					
授業時間外の学習	<p>①次回の授業範囲を予習し、概要を理解しておく。</p> <p>②模擬授業の準備をし、学習指導案を作成する。</p> <p>（学修に係る標準時間は週約4時間）</p>					
授業の到達目標	<p>①英語教育の基礎知識を身につける。</p> <p>②英語の指導方法に関する基礎的な理論と技術について理解を深め、模擬授業を通じてそれらを実践し、教育実習で求められる指導技術の基礎を身につける。</p>					
評 価 方 法	定期試験40点、模擬授業40点、読書課題20点					
テキスト	<p>『新・英語教育概論 改訂版』高梨庸雄・高橋正夫著 金星堂</p> <p>『Sunshine English Course 1~3』開隆堂</p> <p>『中学校学習指導要領』文部科学省</p> <p>『中学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省</p>					
参 考 書	<p>『英語教師のための第二言語習得論入門』白井恭弘著 大修館書店</p> <p>『外国語学習の科学—第二言語習得理論とは何か』白井恭弘著 岩波書店</p> <p>『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』和泉伸一著 大修館書店</p> <p>『だから英語は教育なんだ』三浦孝他著 研究社</p> <p>『英語化は愚民化 日本の国力が地に落ちる』施光恒著 集英社新書</p> <p>『中学英語の授業開き1年間が決まる「黄金の3日間」のシナリオ』田上義浩編著 明治図書</p>					
備 考	特になし					